

東日本旅客鉄道株式会社  
八王子支社長  
下 村 直 樹 様

## J R 八高線に関する要望書

令和 3 年 1 月 1 8 日

瑞 穂 町  
瑞 穂 町 議 会

## J R 八高線に関する要望書

大寒の節、貴社におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、J R 八高線は町内を通る唯一の軌道系交通機関として、町民の移動及び町の活性化に欠くことのできない極めて重要な役割を担っています。

統計では通勤・通学等により、瑞穂町には毎日約2万3千人の出入りがある中で、箱根ヶ崎駅利用者数は、平成30年度に一日平均4千5百人に迫る人数となり、年々増加傾向にあります。

一方で、平成31年4月1日から箱根ヶ崎駅における駅員の配置時間が変更され、平日の日中以外の時間帯では無人となっています。券売機で切符が購入できなくなり、乗車方法がわからなかった、不便になった、といったご意見が多く寄せられています。

一方でまた、平成30年度、町民に対して行った、公共交通に関する意向調査結果では、運行本数が少ないこと、終発時間が早いこと、乗継ぎが不便なことなどが挙げられました。また、今後運行本数や駅が遠いことなどが改善された場合は、鉄道を利用したいという回答も多くありました。

このように、交通需要は大きいものの、多くの町民が八高線に不便を感じ、自家用車等を利用している現状です。

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸については、東京都において「事業化に向けて検討すべき6路線」の一つに位置付けられ、今年度はモノレール基本設計（2北北ー多摩都市モノレール（上北台～箱根ヶ崎））業務委託契約が締結され、この延伸の実現による八高線との接続は、交通利便性の向上に大きくつながります。

しかしながら、平成22年の車両基地及び拝島～箱根ヶ崎駅間の複線化計画を当面着手しないとの発表は、今後のまちづくりに甚大な影響を与えるものであり、町及び町議会としては容認することはできません。

八高線の増発や複線化、新駅の設置、車両基地の建設等の利便性の向上に町民の期待が高まっている中、町及び町議会では、現在推進している箱根ヶ崎駅西・殿ヶ谷の2地区に加え、箱根ヶ崎駅と金子駅のほぼ中間に位置する栗原地区の土地区画整理事業計画を進めるなど、沿線開発を積極的に進め、貴社の事業に引き続き協力してまいります。

一日も早い現計画の凍結解除と事業着手をお願いするとともに、下記

事項について、それぞれ特段の御配慮を賜りますよう要望いたします。

## 要 望 事 項

- 1 列車の増結や運行本数の増発等、特に朝夕のラッシュ時及び24時台において、より一層利便性の向上を図られたい。
- 2 東京方面直通電車の増発を上下線共に図られたい。
- 3 拝島駅での八高線への乗り継ぎ時間、特に待ち時間が30分を超える便の接続改善を図られたい。
- 4 箱根ヶ崎駅において無人となる時間帯が生じているため、駅員勤務時間の見直しを願いたい。
- 5 箱根ヶ崎～金子駅間に位置する「栗原地区土地区画整理事業」予定地内、及び東福生～箱根ヶ崎駅間に新駅の設置を図られたい。
- 6 車両基地及び拝島～箱根ヶ崎駅間の複線化計画の早期実現を図られたい。特に複線化計画用地の買収について、適切に対応されたい。また、車両基地建設予定用地は、資材置き場として暫定的に利用されているが、暫定使用が常時利用とならず、早期に本来の土地保有目的のために活用されたい。
- 7 地方交通線から幹線への昇格(運賃格差の是正)を図られたい。
- 8 朝夕ラッシュ時のホーム上の混雑や障がいをお持ちの方の事故等による線路上への転落防止のため、ホームドア又は可動式ホーム柵を整備されたい。
- 9 青梅街道踏切は交通量も多く、危険な状況にあるため、利用者の安全確保のためにも早期に歩道設置を図られたい。

令和3年1月18日

東京都西多摩郡瑞穂町

瑞穂町長 杉 浦 裕 之

瑞穂町議会

議 長 古 宮 郁 夫

瑞穂町議会交通対策特別委員会

委 員 長 下 野 義 子